

**エジプト・アラブ共和国  
水管理改善プロジェクトⅡ  
中間レビュー調査報告書**

平成 23 年 9 月  
(2011年)

独立行政法人国際協力機構  
農村開発部

## 序 文

日本政府は、エジプト・アラブ共和国政府からの要請を受け、2008年6月から3年10カ月の予定で技術協力プロジェクト「水管理改善プロジェクトⅡ」を実施しています。

本プロジェクトによる協力期間の中盤にあたり、事業の進捗状況を把握し中間レビューを行うとともに、プロジェクト後半の運営において日本側及びエジプト・アラブ共和国政府がとるべき措置を提言することを目的として、当機構は2010年3月1日から同年3月19日にかけて、当機構農村開発部畑作地帯グループ畑作地帯第二課長小林伸行を団長とする中間レビュー調査団を派遣しました。

本報告書は、同調査団の調査及び協議結果を取りまとめたものです。

最後に、本調査にご協力とご支援をいただいた内外の関係各位に対し、心より感謝の意を表します。

平成23年9月

独立行政法人国際協力機構  
農村開発部長 熊代 輝義

# 目 次

序 文  
目 次  
地 図  
写 真  
略語表

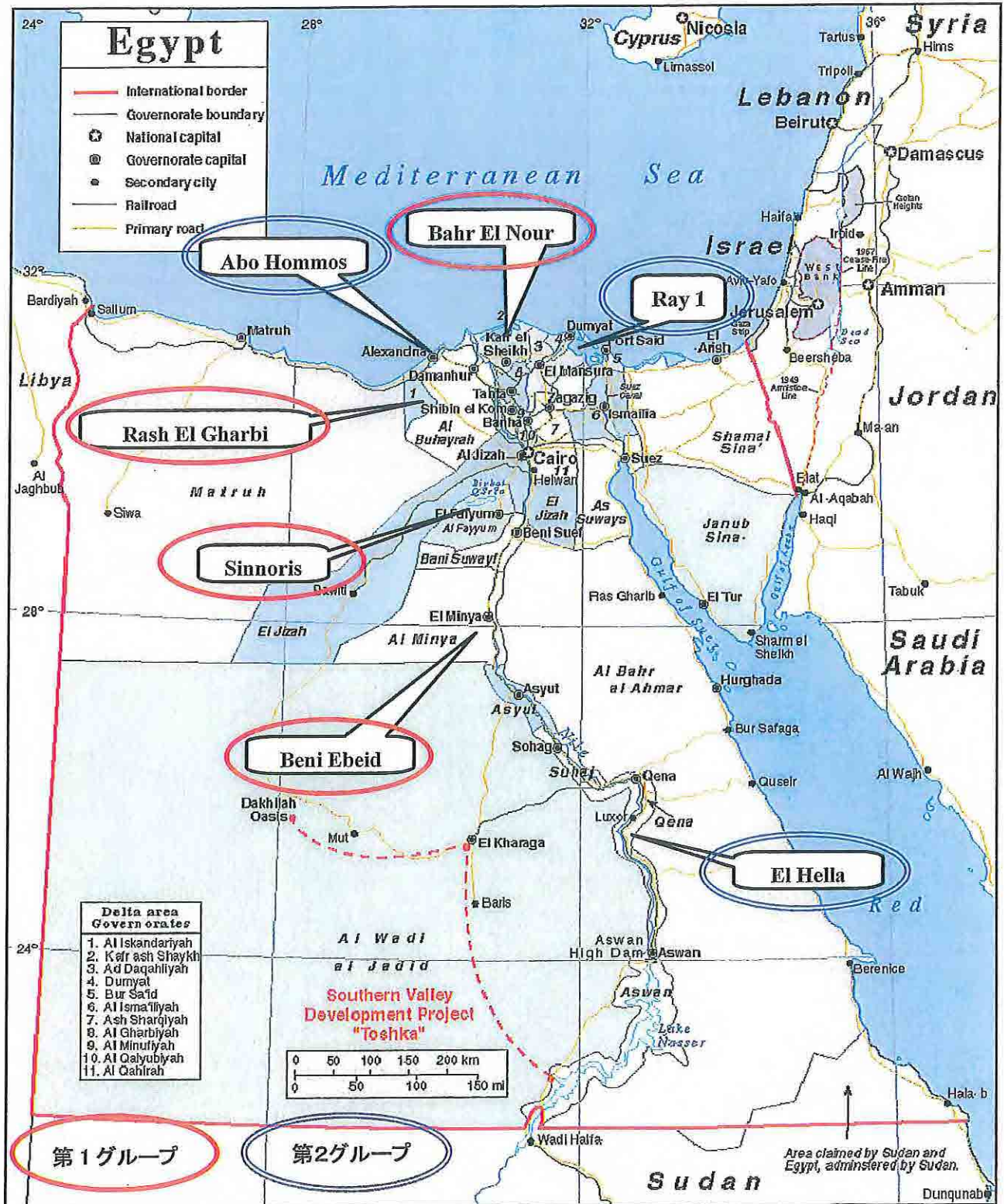
評価調査結果要約表

第1章 調査の概要	1
1-1 調査団派遣の経緯と目的	1
1-2 調査団の構成	2
1-3 調査期間	2
1-4 対象プロジェクトの概要	3
第2章 評価の方法	6
2-1 評価手順	6
2-2 主な評価項目	6
2-3 情報・データ収集方法	6
第3章 プロジェクトの実績	8
3-1 投入実績	8
3-1-1 日本側投入	8
3-1-2 エジプト側投入	8
3-2 成果の達成状況	8
3-3 プロジェクト目標の達成度	11
3-4 実施プロセス	12
第4章 評価結果	13
4-1 評価5項目による評価	13
4-1-1 妥当性	13
4-1-2 有効性	13
4-1-3 効率性	13
4-1-4 インパクト	13
4-1-5 自立発展性	14
4-2 結 論	14
第5章 提言/教訓	15
5-1 提 言	15
5-2 教 訓	17

付属資料

Minutes of Meeting (M/M) .....21

地 図





共同補修作業によって補修された用水路 (Bahr El Nur)



共同補修作業によって補修された用水路 (Ras El Gharbi)



支線水路水利組合 (BCWUA) の管理するポンプ場 (Beni Ebeid)



ポンプの運転記録 (Beni Ebeid)



廃棄物投棄防止のキャンペーンによってきれいになった用水路 (Beni Ebeid)

## 略 語 表

略 語	英 語	和 文
BCWUA	Branch Canal Water Users' Association	支線水路水利組合
CDIAS	Central Department of Irrigation Advisory Service	(水資源灌漑省) 灌漑指導部
C/P	Counterpart Personnel	カウンターパート
DIAS	Directorate Irrigation Advisory Service	管区灌漑指導部支所
DWB	District Water Board	灌漑区水利組合
GDIAS	General Directorate Irrigation Advisory Service	管区灌漑指導部
HQ curve	Height-Quantity curve	水位流量曲線
IAS	Irrigation Advisory Service	灌漑指導部
IIS	Irrigation Improvement Sector	灌漑改善セクター
M&E	Monitoring and Evaluation	モニタリング・評価
MP	Master Plan	マスタープラン
MWRI	Ministry of Water Resource and Irrigation	水資源灌漑省
ODA	Official Development Assistance	政府開発援助
PDM	Project Design Matrix	プロジェクト・デザイン・マトリックス
PO	Plan of Operations	活動計画
PRA	Participatory Rural Appraisal	参加型農村調査
RMC	Regional Management Committee	地方運営委員会
WMIP	Water Management Improvement Project	ナイルデルタ水管理改善計画
WUA	Water Users' Association	水利組合
WUO	Water Users' Organization	水利組合
WUU	Water Users' Union	水利組合



## 評価調査結果要約表

<b>1 案件の概要</b>		
国名：エジプト・アラブ共和国	案件名：水管理改善プロジェクトⅡ	
分野：農業	援助形態：技術協力プロジェクト	
所轄部署：農村開発部畑作地帯グループ畑作地帯第二課	協力金額（評価時点）：1億9,000万円	
協力期間	R/D：2008年6月3日～ 2012年4月2日	先方関係機関：（水資源灌漑省）灌漑指導部（CDIAS）
	延長：	日本側協力機関：農林水産省
	F/U：	他の関連協力：ナイルデルタ水管理改善計画
	E/N（無償）	
<b>1-1 協力の背景と概要</b>		
<p>エジプト・アラブ共和国（以下、「エジプト」と記す）では、急激な人口増加（年率2%）による水消費の増大と、農業生産拡大と雇用拡大をめざした農地拡大により、水資源の需給が逼迫している。しかし、同国水資源の大部分（97%）を賄うナイル川の利用可能水量は、スーダンとの二国間の国際水利協定により年間555億tと規定され、新たな水資源の開発にも制約がある。</p> <p>同国政府は2017年を目標年とする国家水資源計画（NWRP 2017）を策定するとともに、水資源消費の8割以上を占める農業セクターにおいても、灌漑改善事業、農業排水の再利用、灌漑施設の改修等による水資源利用の効率化を推進し、新たな需要に対して必要な水資源を創出することを計画している。同政府は、ドナーの支援を受けながら、水資源を適切に管理するため水利組合の設立や末端水路の改修を含む灌漑改善事業を1980年代から実施し、水利組合に末端水管理の役割を担わせるための法律改正を含む施策を推進してきた。</p> <p>しかしながら、ドナーの資金援助による灌漑施設の整備は進んだものの、設立された水利組合の数は少なく、また水利組合の設立にあたっては農家の合意形成などの活動を十分に行ってこなかった。その結果、設立された水利組合は農家の必要水量や取水可能量を考慮せずに硬直的な水配分を行う、支線水路の上流側での過剰取水のために同一水路の下流側で水不足を生じさせるなど機能しておらず、また、他地域への広がりも見られず、NWRP 2017のなかで定められた2017年の目標の達成は困難な状況にある。</p> <p>このため、設立した水利組合の活動を促進、管理、評価、モニタリングするとともに新規の水利組合の設立を促進する行政組織である（水資源灌漑省）灌漑指導部（Central Department of Irrigation Advisory Service：CDIAS）の能力強化の必要性が指摘され、本プロジェクトがエジプト政府より要請された。</p> <p>現在、CDIASをカウンターパート（C/P）機関に、2010年6月から3年10カ月の予定で3名の長期専門家（総括/組織開発、水資源管理、水管理組織/業務調整）の派遣により活動を実施中である。</p> <p>2009年3月に第1回運営指導調査を実施した。今回調査は、協力期間の約半分にさしかかった現時点において、エジプト側関係機関と合同でプロジェクトの活動進捗状況を確認するとともに、評価に達する項目の達成度を検証し、評価5項目（妥当性・有効性・効率性・インパクト・自立発展性）の観点から評価を行ったうえで、残りの協力期間における対応策や方針について検討し、関係当局に提言することを目的とした。</p>		

## 1-2 協力内容

### (1) 上位目標

国家の重要課題である効率的な水資源管理を実現できるよう、全国の水利組合（Water Users' Organization : WUO）が灌漑区（District）、支線（Branch Canal）、圃場（メスカ）レベルで技術的・組織的・財政的に自立している。

### (2) プロジェクト目標

全国のWUOを設立支援、活動強化できるよう、CDIASの能力が向上する。

### (3) 成果

成果1：灌漑区単位で取り組んでいる「統合水資源管理」が適切に実現されるよう、さまざまなレベルで形成されるWUOのその地域や状況に即した現実的かつ理想的な姿や機能が明確になる。

成果2：灌漑区単位で取り組んでいる「統合水資源管理」が適切に実現されるよう、WUOの設立支援、活動強化をするための方策が確立される。

成果3：国内のWUOの設立支援、活動強化をするために、全国レベルで政府機関の体制が整う。

### (4) 投入（評価時点）

#### 1) 日本側

専門家派遣：3名（長期専門家）3名（短期専門家）

機材供与：車両、コピー機やノートパソコンなどのOA機器等

ローカルコスト負担：4,416万6,176円

研修員受入：8名

#### 2) 相手国側

カウンターパート配置：52名

専門家のためのプロジェクト事務室等

運営コスト：42万6,105エジプトポンド

## 2 評価調査団の概要

	担当分野	氏名	所属
調査者	総括	小林 伸行	JICA農村開発部畑作地帯グループ畑作地帯 第二課長
	水利組合	柏原 学	農林水産省農村振興局整備部設計課海外土地改良技術室 課長補佐
	評価分析	岸並 賜	(株)国際開発アソシエイツ パーマネントエキスパート
調査期間	2010年3月1日～2010年3月19日		評価種類：中間レビュー調査

## 3 評価結果の概要

### 3-1 実績の確認

#### (1) アウトプット

##### 1) 成果1

活動はほぼ計画どおりに進捗しているが、活動1-1は既存のガイドラインやマニュアルに関する情報を得るのに時間を要し、若干の遅れがある。指標についてはほぼ満たしており、灌漑区水利組合（District Water Board : DWB）及び支線水路水利組合（Branch Canal

Water Users' Association : BCWUA) に対する法的裏づけが今後付与されれば、成果1の達成度はさらに高くなる。

2) 成果2

活動はほぼ計画どおりに進捗しており、指標を満たしていることから、プロジェクト期間中に達成できると判断する。

3) 成果3

国内の水利組合 (Water Users' Association : WUO) の設立支援、活動強化をするために、全国レベルで政府機関の体制が整う。

いくつかの活動に進捗の遅れがある。水資源灌漑省が必要な措置をとって灌漑区水利組合 (District Water Board : DWB) の法的地位が明確になることで、プロジェクト期間中に達成されると判断する。

(2) プロジェクト目標

プロジェクト目標の指標は成果の進捗とともに徐々に満たされている。DWB及びBCWUAに対する法的裏づけがあれば、プロジェクト目標の達成度はさらに高くなる。

### 3-2 評価結果の要約

(1) 妥当性

妥当性は「高い」といえる。

プロジェクト目標は、エジプト政府の政策、及び日本のODA、JICAの国別方針と合致している。CDIASは農業用水の効率的利用のために既存の水利組合を強化し、新たに水利組合の設立を支援する機能を担っており、プロジェクト目標と直結している。ただ、水資源灌漑省における組織改編が進行中でもあり、同省におけるCDIASの位置づけが現行どおり維持される必要がある。

(2) 有効性

有効性は「中程度」といえる。

活動はほぼ計画どおりに進捗しており、プロジェクト期間内に目標を達成する見込み。ただ、DWB及びBCWUAに対する法的裏づけが今後付与されれば、プロジェクト目標の達成度はより高い水準に達する。

(3) 効率性

効率性は「中程度」といえる。

日本側、エジプト側の投入は効率的に成果の発現に使われている。成果1及び2に関しては順調に進捗しているものの、成果3に関しては、DWB及びBCWUAに対する法的裏づけがないために若干の遅れがある。

(4) インパクト

上位目標については、指標に関する具体的な数値を今回調査時に入手できていない。しかし、各プロジェクトサイトでの自主的な活動が活発に行われる等、上位目標の達成に向けてプラスの変化が見られる一方で、協力期間後のC/Pの異動や辞職が上位目標の達成のための懸念材料である。

#### (5) 自立発展性

自立発展性は「中程度」といえる。

プロジェクトがエジプト政府の政策と合致していること、プロジェクトの活動手法に対する関係者の関心が高いこと、移転した技術がエジプトのさまざまな地域で受容されると考えられることなどから、一定の自立発展性は確保されている。ただし、DWB及びBCWUAに対するエジプトの政策については改善の余地があるため、これが現時点で十分確保されているとはいえない。

### 3-3 効果発現に貢献した要因

#### (1) 計画内容に関すること

計画内容は、エジプト国の課題、政策と合致していたため、関心も非常に高いものであることから時宜を得たものであったといえる。また、日本での研修は、帰国後の活動に対するモチベーションを高めたといえる。

#### (2) 実施プロセスに関すること

共同補修作業の導入は、DIAS職員とWUOメンバー（農家）の双方にとって、水利組合の必要性やその強化のために何が重要であるかを認識するために効果的であったとして、関係者に高く評価されている。

### 3-4 問題点及び問題を惹起した要因

#### (1) 計画内容に関すること

本プロジェクトは、R/D締結時に合意された計画（PDM及びPO）に沿って実施されているが、同計画には内容の不明確な箇所があるところ、これをより明確に解釈して評価を行った。ただ、外部条件と考えられる要素（DWB及びBCWUAへの法的裏づけ）が成果の指標（DWBの整備計画の策定）に含まれるようにも考えられ、これが評価の際の解釈に相違を生じさせた。

#### (2) 実施プロセスに関すること

特になし。

### 3-5 結論

プロジェクトの活動は計画（PO）に基づいてほぼ順調に進捗している。妥当性は高く、インパクトの発現もある。効率性及び有効性は中程度であり、DWB及びBCWUAに対するエジプトの政策に関して改善される余地がある。DWB及びBCWUAの法的地位の承認が、自立発展性を確保するための重要な要因となっている。

### 3-6 提言（当該プロジェクトに関する具体的な措置、提案、助言）

#### (1) DWB及びBCWUAに対する法的裏づけ付与のための取り組みの推進

支線水路レベル、ディストリクトレベルの水利組合（それぞれBCWUA及びDWB）の能力強化のために、BCWUA及びDWBに対して法的位置づけが付与され、水管理におけるそれぞれの機能と役割とが明確にされる必要がある。

#### (2) 環境に関する啓発活動の強化

環境に関する啓発活動が強化されるべきである。水路への廃棄物投棄防止活動等の啓発活動は正の効果を生んでおり、水路の美化だけでなく農村地域での環境改善に貢献してい

る。

- (3) 中央と地方の関係機関〔CDIAS、GDIAS (General Directorate Irrigation Advisory Service)、RMC (Regional Management Committee)、WUO等〕の協力強化  
CDIAS、GDIAS、RMC、WUO及び関係者は、よりよい統合水資源管理のため、協力関係をより強化すべきである。
- (4) PDMの見直し(指標の設定・改訂等)  
PDMIに記載されている指標をより明確化すべきである。また、明確化された指標に基づくモニタリングを早急に開始する必要がある。
- (5) メスカレベルでの水利組合の能力強化の必要性  
BCWUAを構成するWUA (Water Users' Association) 及びWUU (Water Users' Union) は農民による参加型灌漑管理の基本単位であり、WUA及びWUUの強化が重要である。このため、エジプト側は引き続きナイルデルタ水管理改善計画(WMIP I)の経験を生かし、その設立や強化を進めるべきである。
- (6) 水利組合における活動や計画内容の文書化の推進  
メスカレベルの水利組合において、標準化した書式によって活動や計画内容を文書化することが必要である。
- (7) 信頼の構築  
問題解決に向け、水資源灌漑省と水利組合との間の信頼の構築が不可欠である。
- (8) 成功例の普及  
プロジェクト成果の波及に向けた成功例の取りまとめと、それら教材の研修等への活用が重要である。

### 3-7 教訓(当該プロジェクトから導き出された他の類似プロジェクトの発掘・形成、実施、運営管理に参考となる事柄)

- (1) すべての関係者の関与  
問題の明確化(問題系図の作成)、計画の策定(PDMの作成)、計画に基づく活動の実施における、すべての関係者の参画が、参加型灌漑管理の実現に大きく寄与する。
- (2) 共同補修作業  
すべての関係者が参加型で活動を実施する重要性を理解するには、実際の事業実施結果を示すことが効果的である。この点で、本プロジェクトで導入した共同補修作業は特に有用である。
- (3) 問題解決能力  
関係者の問題解決能力を強化するには、すべての関係者を巻き込んだOJT等による問題解決を継続していく必要がある。

(4) 水利組合間での知識・技術の交換

農民が水利組合の必要性を理解し、その活動に参加するためには、運営に成功している水利組合から農家を招くことや、それらを訪問することによって、実用的な知識や技術を交換することが有効である。

# 第1章 調査の概要

## 1-1 調査団派遣の経緯と目的

エジプト・アラブ共和国（以下、「エジプト」記す）では、急激な人口増加（年率2%）による水消費の増大と、農業生産拡大と雇用拡大をめざした農地拡大により、水資源の需給が逼迫している。しかし、同国水資源の大部分（97%）を賄うナイル川の利用可能水量は、スーダンとの二国間の国際水利協定により年間555億tと規定され、新たな水資源の開発にも制約がある。

同国政府は2017年を目標年とする国家水資源計画を策定するとともに、水資源消費の8割以上を占める農業セクターにおいても、灌漑改善事業、農業排水の再利用、灌漑施設の改修等による水資源利用の効率化を推進し、新たな需要に対して必要な水資源を創出することを計画している。同政府は、ドナーの支援を受けながら、水資源を適切に管理するため水利組合の設立や末端水路の改修を含む灌漑改善事業を1980年代から実施し、水利組合に末端水管理の役割を担わせるための法律改正を含む施策を推進してきた。

しかしながら、ドナーの資金援助による灌漑施設の整備は進んだものの、設立された水利組合の数は少なく、また水利組合の設立にあたっては農家の合意形成などの活動を十分に行ってこなかった。その結果、設立された水利組合は農家の必要水量や取水可能量を考慮せずに硬直的な水配分を行う、支線水路の上流側での過剰取水のために同一水路の下流側で水不足を生じさせるなど機能しておらず、また、他地域への広がりも見られず、国家水資源計画のなかで定められた2017年の目標の達成は困難な状況にある。

このため、設立した水利組合の活動を促進、管理、評価、モニタリングするとともに新規の水利組合の設立を促進する行政組織である水資源灌漑省灌漑指導部（Central Directorate of Irrigation Advisory Service : CDIAS）の能力強化の必要性が指摘され、本プロジェクトがエジプト政府より要請された。

現在、CDIASをカウンターパート（Counterpart Personnel : C/P）機関に、2010年6月から3年10カ月の予定で3名の長期専門家（総括/組織開発、水資源管理、水管理組織/業務調整）の派遣により活動を実施中である。

2009年3月に第1回運営指導調査を実施した。今回調査は、協力機関の約半分にさしかかった現時点において、エジプト側関係機関と合同でプロジェクトの活動進捗状況を確認するとともに、評価に達する項目の達成度を検証し、評価5項目（妥当性・有効性・効率性・インパクト・自立発展性）の観点から評価を行ったうえで、残りの協力機関における対応策や方針について検討し、関係当局に提言することを目的とする。

## 1-2 調査団の構成

### (1) 日本側調査団

担当分野	氏名	所属
総括	小林伸行	独立行政法人国際協力機構 農村開発部 畑作地帯グループ 畑作地帯第二課長
水利組合	柏原 学	農林水産省 農村振興局 整備部設計課 海外土地改良技術室 課長補佐
評価分析	岸並 賜	株式会社国際開発アソシエイツ パーマネントエキスパート

### (2) エジプト側評価委員

Dr.Mohammed Shehata	Leader	General Manager of Research and Studies, Irrigation Department, MWRI
Eng.Tarek El-Tayeb	Member	Director of Works of Technical Office, IIS, MWRI
Eng.Abdel Salem Gaber	Member	Head of Abo Hommos Integrated Water Resource District/Integrated General Department for Irrigation in Behaira, MWRI
Eng.Ayman Naddar	Member	Head of Technical Office of Undersecretary/Central Department of Fayoum, MWRI

## 1-3 調査期間

2010年3月1日から2010年3月19日（19日間）

日付	小林/柏原	岸並
3/1 月	△	東京発
3/2 火		カイロ着 JICA所員打合せ
3/3 水		MWRI表敬訪問 CDIAS打合せ JICA専門家打合せ
3/4 木		カウンターパート打合せ（中間報告） -CDIAS -GDIAS（西デルタ） -GDIAS（ファユーム） -GDIAS（ミニア）
3/5 金		休日
3/6 土	東京発	カフル・シェイク訪問 GDIAS（中央・東デルタ）打合せ WUO代表者打合せ
3/7 日	カイロ着 JICA所員・専門家打合せ	JICA所員・専門家打合せ
3/8 月	フセインMWRI副大臣表敬訪問 第1回合同評価委員会会議	



3/9	火	Bahr El Nour訪問 -GDIAS/DIAS打合せ -BCWUAインタビュー -現地視察
3/10	水	Ras El Gharbi訪問 -GDIAS/DIAS打合せ -BCWUAインタビュー -現地視察
3/11	木	Sinnoris訪問 -GDIAS/DIAS打合せ -BCWUAインタビュー -現地視察
3/12	金	ミニアへ移動
3/13	土	Beni Ebeid訪問 -GDIAS/DIAS打合せ -BCWUAインタビュー -現地視察
3/14	日	第2回合同評価委員会会議
3/15	月	第3回合同評価委員会会議
3/16	火	第4回合同評価委員会会議 MWRI副大臣への報告 ミニッツ（合同評価報告書）署名
3/17	水	JICAエジプト事務所への報告 在エジプト日本大使館への報告
3/18	木	カイロ発
3/19	金	東京着

#### 1-4 対象プロジェクトの概要

##### (1) プロジェクトの目的

水利組合の活動を促進、管理、評価、モニタリングする行政機関であるCDIASの機能強化及び職員の能力向上を目的とする。

具体的には、エジプト国内の7つのプロジェクトサイトを取り上げ、サイト内の水利組合の設立支援とその機能強化を通じ、その地域の状況に即した現実的かつ理想的な水利組合の姿や機能を明確にし、また、水利組合を設立・強化するための方策を確立することで、組織を管理する行政機関であるCDIAS職員の能力を強化するとともに、そうした方策を全国レベルに展開できるように政府機関の体制整備に取り組む。

##### (2) 協力期間

2008年6月3日～2012年4月2日（3年10カ月）

##### (3) 協力総額（日本側）

約1億9,000万円（事業事前評価額）

#### (4) 協力の概要 (PDM上の記述)

##### ①上位目標

国家の重要課題である効率的な水資源管理を実現できるよう、全国のWUOが灌漑区 (District)、支線 (Branch Canal)、圃場 (メスカ) レベルで技術的・組織的・財政的に自立している。

##### ②プロジェクト目標

全国の水利組合 (Water Users' Organization : WUO) を設立支援、活動強化できるよう、CDIASの能力が向上する。

##### ③成果

成果1 : 灌漑区単位で取り組んでいる「統合水資源管理」が適切に実現されるよう、さまざまなレベルで形成されるWUOのその地域や状況に即した現実的かつ理想的な姿や機能が明確になる。

成果2 : 灌漑区単位で取り組んでいる「統合水資源管理」が適切に実現されるよう、WUOの設立支援、活動強化をするための方策が確立される。

成果3 : 国内のWUOの設立支援、活動強化をするために、全国レベルで政府機関の体制が整う。

#### (5) 協力相手先機関

水資源灌漑省灌漑局灌漑指導部 (CDIAS)

#### (6) 国内協力機関

農林水産省

#### (7) 対象地域

①直接裨益者 : CDIAS職員35名、管区灌漑指導部 (General Directorate Irrigation Advisory Service : GDIAS) 職員151名、管区灌漑指導部支所 (Directorate Irrigation Advisory Service : DIAS) 職員408名

②間接裨益者 : 7プロジェクトサイトの水利組合の構成員 (20,000戸程度<sup>1</sup>)

③プロジェクトサイト :

先行 (第1) グループ

日本人専門家の積極的な関与を通じて関係者への技術移転を行う。

- ・ Beni Ebeid (ベニ・アビード) (ミニア県)
- ・ Sinnoris (シノーリス) (ファユーム県)
- ・ Bahr El Nour (バハル・ヌール) (カフル・シェイク県)
- ・ Rash El Gharbi (ラシュ・エル・ガルビ) (バヘイラ県)

第2グループ

上の4サイトで得られた知見を生かして、C/Pが関係者への指導を行い、日本人専門家はこれを支援する。

<sup>1</sup> 7サイトの受益面積5万1,181haと、うち2サイトの受益面積 (8,215ha) 及び受益農民数 (3,200戸) から推定した。

- ・ Abo Hommos (アボ・ハモス) (バヘイラ県)
- ・ El Hella (エル・ヘラ) (ケナ県)
- ・ Ray1 (ライ1) (ダカヒリア県)

本プロジェクトの事前調査の時点では、第1グループとしてBeni Ebeid、Sinnoris、Bahr Biyala (バハル・ビヤラ) (カフル・シェイク県)、Abo Hommos、第2グループとしてEl Hella、Ray 1、Bustan (ブスタン) (アレクサンドリア県) を想定していたが、その後の各サイトの状況の変化を踏まえ、表1-1のとおり変更することとした。

表1-1 プロジェクトサイトの変更

当初案	変更後	変更理由
Bahr Biyala	Bahr Biyala 全体のうち Bahr El Nourのみを対象	エジプト側が行う予定であったBahr Biyalaの他地区のBCWUAが設立されなかったため。
Abo Hommos	第2グループに延期	世界銀行及びオランダ等が支援する統合型灌漑改善管理プロジェクト(事前調査時には、プロジェクト開始までに終了予定)の進捗が遅れており、同プロジェクトの活動完了を待つ必要性があり、経過を見るため。
Bustan	Rash El Gharbiに変更	西デルタ地域に位置するAbo Hommos及びBustanの開始が困難であるため、同地区における活動を早期開始するために新規サイトを選定。